Tokyo Worship Tabernacle 東京賛美の宮

TWT BIBLE SCHOOL

学生用ノート | 日本語

レッスン 6



東京賛美の宮聖書学校2026
Tokyo Worship Tabernacle Bible School 2026

I. 新約聖書の概要

旧約聖書は約4,000年にわたる歴史を扱っているのに対し、新約聖書が扱っている歴史は約100年間です。



A. 新約聖書は、大きく4つの部分に分けることができます。

1. **福音書**（マタイによる福音書 → ヨハネによる福音書）
   – 福音書は、私たちにイエス・キリストを紹介しています。

2. **使徒行伝**（使徒行伝）
   – 使徒行伝は、私たちがどのようにしてキリストにある者となるのかを示しています。

3. **書簡**（ローマ人への手紙 → ユダの手紙）
   – 書簡は、私たちがどのようにしてキリストにとどまり、その信仰の中を歩み続けるべきかを教えています。

4. **イエス・キリストの黙示**（ヨハネの黙示録）
   – ヨハネの黙示録は、キリストにとどまることを選ぶ者と、そうしない者が、最終的にそれぞれどのような結末を迎えるのかを教えています。

新約が効力を持つようになったのは、イエス・キリストの死後です。

ヘブル人への手紙9:16-17「いったい、遺言には、遺言者の死の証明が必要である。[17]遺言は死によってのみその効力を生じ、遺言者が生きている間は、効力がない。」

II. イエスの誕生



ルカによる福音書1:31-35「見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。[32]彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、[33]彼はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう」。[34]そこでマリヤは御使に言った、「どうして、そんな事があり得ましょうか。わたしにはまだ夫がありませんのに」。[35]御使が答えて言った、「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう。

マタイによる福音書1:20-23「彼がこのことを思いめぐらしていたとき、主の使が夢に現れて言った、「ダビデの子ヨセフよ、心配しないでマリヤを妻として迎えるがよい。その胎内に宿っているものは聖霊によるのである。[21]彼女は男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである」。[22]すべてこれらのことが起ったのは、主が預言者によって言われたことの成就するためである。すなわち、[23]「見よ、おとめがみごもって男の子を産むであろう。その名はインマヌエルと呼ばれるであろう」。これは、「神われらと共にいます」という意味である。」

ヘブル語において、**イエス**という名は**「エホバ（は）救い」**という意味を持っています。新約聖書において、神はイエス・キリストというお方を通して、肉体をもって御自身を現されました。



イザヤ書9:6「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、「霊妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君」ととなえられる。」

テモテへの第一の手紙3:16「確かに偉大なのは、この信心の奥義である、／「キリストは肉において現れ、**【英語(KJV)の聖書では、「神は肉において現れ、(God was manifested in the flesh)」とあります。】**／霊において義とせられ、／御使たちに見られ、／諸国民の間に伝えられ、／世界の中で信じられ、／栄光のうちに天に上げられた」。」

イエスの誕生はまた、創世記に記された預言の成就でもあります。（**レッスン2**参照）。

創世記3:15「わたしは恨みをおく、／おまえと女とのあいだに、／おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、／おまえは彼のかかとを砕くであろう」。」

#1: イエスは、罪によるのろいを_____、サタンのわざを滅ぼすために来られました。

III. バプテスマのヨハネ

マラキ書3:1「見よ、わたしはわが使者をつかわす。彼はわたしの前に道を備える。またあなたがたが求める所の主は、たちまちその宮に来る。見よ、あなたがたの喜ぶ契約の使者が来ると、万軍の主が言われる。」



イエス・キリストの洗礼
ヨハネ1:29–34

テモテへの第一の手紙3:16
「確かに偉大なのは、この信心の奥義である、／「キリストは肉において現れ、／霊において義とせられ、／御使たちに見られ、／諸国民の間に伝えられ、／世界の中で信じられ、／栄光のうちに天に上げられた」。」

ルカによる福音書3:3-6「彼はヨルダンのほとりの全地方に行って、罪のゆるしを得させる悔改めのバプテスマを宣べ伝えた。[4]それは、預言者イザヤの言葉の書に書いてあるとおりである。すなわち／「荒野で呼ばわる者の声がする、『主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ』。[5]すべての谷は埋められ、すべての山と丘とは、平らにされ、曲ったところはまっすぐに、わるい道はならされ、[6]人はみな神の救を見るであろう」。」

ヨハネによる福音書1:29「その翌日、ヨハネはイエスが自分の方にこられるのを見て言った、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」

ルカによる福音書3:15-16「民衆は救主を待ち望んでいたので、みな心の中でヨハネのことを、もしかしたらこの人がそれではなかろうかと考えていた。[16]そこでヨハネはみんなの者にむかって言った、「わたしは水でおまえたちにバプテスマを授けるが、わたしよりも力のあるかたが、おいでになる。わたしには、そのくつのひもを解く値うちもない。このかたは、聖霊と火とによっておまえたちにバプテスマをお授けになるであろう。」

IV. イエスの生涯と働き

A. 奇跡



盲目の目を開く
マタイによる福音書9:27–31

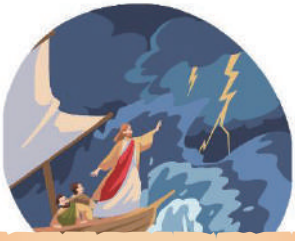
癒し - マタイによる福音書9:27-31「そこから進んで行かれると、ふたりの盲人が、「ダビデの子よ、わたしたちをあわれんで下さい」と叫びながら、イエスについてきた。[28]そしてイエスが家にはいられると、盲人たちがみもとにきたので、彼らに「わたしにそれができると信じるか」と言われた。彼らは言った、「主よ、信じます」。[29]そこで、イエスは彼らの目にさわって言われた、「あなたがたの信仰どおり、あなたがたの身になるように」。[30]すると彼らの目が開かれた。イエスは彼らをきびしく戒めて言われた、「だれにも知れないように気をつけなさい」。[31]しかし、彼らは出て行って、その地方全体にイエスのことを言いひろめた。」

死者をよみがえらせる
- ヨハネによる福音書11:43-45「こう言いながら、大声で「ラザロよ、出てきなさい」と呼ばわれた。[44]すると、死人は手足を布でまかれ、顔も顔おおいで包まれたまま、出てきた。イエスは人々に言われた、「彼をほどいてやって、帰らせなさい」。[45]マリヤのところにきて、イエスのなさったことを見た多くのユダヤ人たちは、イエスを信じた。」



死者をよみがえらせる
ヨハネによる福音書11:41-45

嵐を静める - マルコによる福音書4:35-41「さてその日、夕方になると、イエスは弟子たちに、「向こう岸へ渡ろう」と言われた。[36]そこで、彼らは群衆をあとに残し、イエスが舟に乗っておられるまま、乗り出した。ほかの舟も一緒に行った。[37]すると、激しい突風が起り、波が舟の中に打ち込んできて、舟に満ちそうになった。[38]ところが、イエス自身は、・の方でまくらをして、眠っておられた。そこで、弟子たちはイエスをおこして、「先生、わたしどもがおぼれ死んでも、おかまいにならないのですか」と言った。[39]イエスは起きあがって風をしかり、海にむかって、「静まれ、黙れ」と言われると、風はやんで、大なぎになった。[40]イエスは彼らに言われた、「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか」。[41]彼らは恐れおののいて、互に言った、「いったい、この方はだれだろう。風も海も従わせるとは」。」



嵐を静める
ルカによる福音書8:22-25

悪霊を追い出す - ルカによる福音書4:33-37「すると、汚れた悪霊につかれた人が会堂にいて、大声で叫び出した、[34]「ああ、ナザレのイエスよ、あなたはわたしたちとなんの係わりがあるのです。わたしたちを滅ぼしにこられたのですか。あなたがどなたであるか、わかっています。神の聖者です」。[35]イエスはこれをしかって、「黙れ、この人から出て行け」と言われた。すると悪霊は彼を人なかに投げ倒し、傷は負わせずに、その人から出て行った。[36]みんなの者は驚いて、互に語り合って言った、「これは、いったい、なんという言葉だろう。権威と力とをもって汚れた霊に命じられると、彼らは出て行くのだ」。[37]こうしてイエスの評判が、その地方のいたる所にひろまっていった。」



悪霊を追い出す
ルカによる福音書4:33-37;
6:26-36

B. 食物を増やして何千人もの人々を養う


パンと魚を増やす
マタイによる福音書14:15-21

マタイによる福音書14:15-21「夕方になったので、弟子たちがイエスのもとにきて言った、「ここは寂しい所でもあり、もう時もおそくなりました。群衆を解散させ、めいめいで食物を買いに、村々へ行かせてください」。[16]するとイエスは言われた、「彼らが出かけて行くには及ばない。あなたがたの手で食物をやりなさい」。[17]弟子たちは言った、「わたしたちはここに、パン五つと魚二ひきしか持っていません」。[18]イエスは言われた、「それをここに持ってきなさい」。[19]そして群衆に命じて、草の上にすわらせ、五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福し、パンをさいて弟子たちに渡された。弟子たちはそれを群衆に与えた。[20]みんなの者は食べて満腹した。パンくずの残りを集めると、十二のかごにいっぱいになった。[21]食べた者は、女と子供とを除いて、おおよそ五千人であった。」

#2: イエスは今日もなお、奇跡を通してその御力を_____おられます！

C. 宣教と教え



失われた羊
マタイ18:11-14


種をまく人
マタイ13:1-23


善きサマリア人
ルカ10:25-37

マタイによる福音書4:17「この時からイエスは教を宣べはじめて言われた、「悔い改めよ、天国は近づいた」。」

マタイによる福音書7:28-29「イエスがこれらの言を語り終えられると、群衆はその教にひどく驚いた。[29]それは律法学者たちのようにではなく、権威ある者のように、教えられたからである。」

マタイによる福音書13:10-11「それから、弟子たちがイエスに近寄ってきて言った、「なぜ、彼らに・でお話しになるのですか」。[11]そこでイエスは答えて言われた、「あなたがたには、天国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていない。」

イエスがたとえを用いて教えられたのは、真理を切に求める人々にはその宝を明らかにする一方で、それに関心を持たない人々には、その真理を隠すためでした。

マタイによる福音書13:12-16「おおよそ、持っている人は与えられて、いよいよ豊かになるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう。[13]だから、彼らには・で語るのである。それは彼らが、見ても見ず、聞いても聞かず、また悟らないからである。[14]こうしてイザヤの言った預言が、彼らの上に成就したのである。『あなたがたは聞くには聞くが、決して悟らない。見るには見るが、決して認めない。[15]この民の心は鈍くなり、その耳は聞えにくく、その目は閉じている。それは、彼らが目で見ず、耳で聞かず、心で悟らず、悔い改めていやされることがないためである』。[16]しかし、あなたがたの目は見ており、耳は聞いているから、さいわいである。」

D. 弟子をつくる

マタイによる福音書4:19「イエスは彼らに言われた、「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」。」

マタイによる福音書16:24「それからイエスは弟子たちに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。」

ヨハネによる福音書8:31-32「イエスは自分を信じたユダヤ人たちに言われた、「もしわたしの言葉にうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。[32]また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」。」

マタイによる福音書10:1, 5-8「そこで、イエスは十二弟子を呼び寄せて、汚れた霊を追い出し、あらゆる病気、あらゆるわずらいをいやす権威をお授けになった。・・・[5]イエスはこの十二人をつかわすに当り、彼らに命じて言われた、「異邦人の道に行くな。またサマリヤ人の町にはいるな。[6]むしろ、イスラエルの家の失われた羊のところに行け。[7]行って、『天国が近づいた』と宣べ伝えよ。[8]病人をいやし、死人をよみがえらせ、らい病人をきよめ、悪霊を追い出せ。ただで受けたのだから、ただで与えるがよい。」

#3: イエスは今日もなお、御自分に従う弟子を_____おられます。

IV. 聖書はイエスをどのようなお方であると教えているか

<u>メシヤ、神の子</u>

マタイによる福音書11:2-5「さて、ヨハネは獄中でキリストのみわざについて伝え聞き、自分の弟子たちをつかわして、[3]イエスに言わせた、「『きたるべきかた』はあなたなのですか。それとも、ほかにだれかを待つべきでしょうか」。[4]イエスは答えて言われた、「行って、あなたがたが見聞きしていることをヨハネに報告しなさい。[5]盲人は見え、足なえは歩き、らい病人はきよまり、耳しいは聞え、死人は生きかえり、貧しい人々は福音を聞かされている。」

ヨハネによる福音書20:30-31「イエスは、この書に書かれていないしるしを、ほかにも多く、弟子たちの前で行われた。[31]しかし、これらのことを書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである。」

<u>言は肉体となった</u>

ヨハネによる福音書1:1, 14「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。・・・[14]そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまことに満ちていた。」

神は肉において現れた

テモテへの第一の手紙3:16「確かに偉大なのは、この信心の奥義である、／「キリストは肉において現れ、／霊において義とせられ、／御使たちに見られ、／諸国民の間に伝えられ、／世界の中で信じられ、／栄光のうちに天に上げられた」。」

見えない神のかたち

コロサイ人への手紙1:15「御子は、見えない神のかたちであって、すべての造られたものに先だって生れたかたである。」

ヨハネによる福音書14:6-9「イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。[7]もしあなたがたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知ったであろう。しかし、今は父を知っており、またすでに父を見たのである」。[8]ピリポはイエスに言った、「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下されば、わたしたちは満足します」。[9]イエスは彼に言われた、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか。」

イエスと父とは一つである

ヨハネによる福音書10:30-33「わたしと父とは一つである」。[31]そこでユダヤ人たちは、イエスを打ち殺そうとして、また石を取りあげた。[32]するとイエスは彼らに答えられた、「わたしは、父による多くのよいわざを、あなたがたに示した。その中のどのわざのために、わたしを石で打ち殺そうとするのか」。[33]ユダヤ人たちは答えた、「あなたを石で殺そうとするのは、よいわざをしたからではなく、神を汚したからである。また、あなたは人間であるのに、自分を神としているからである」。」

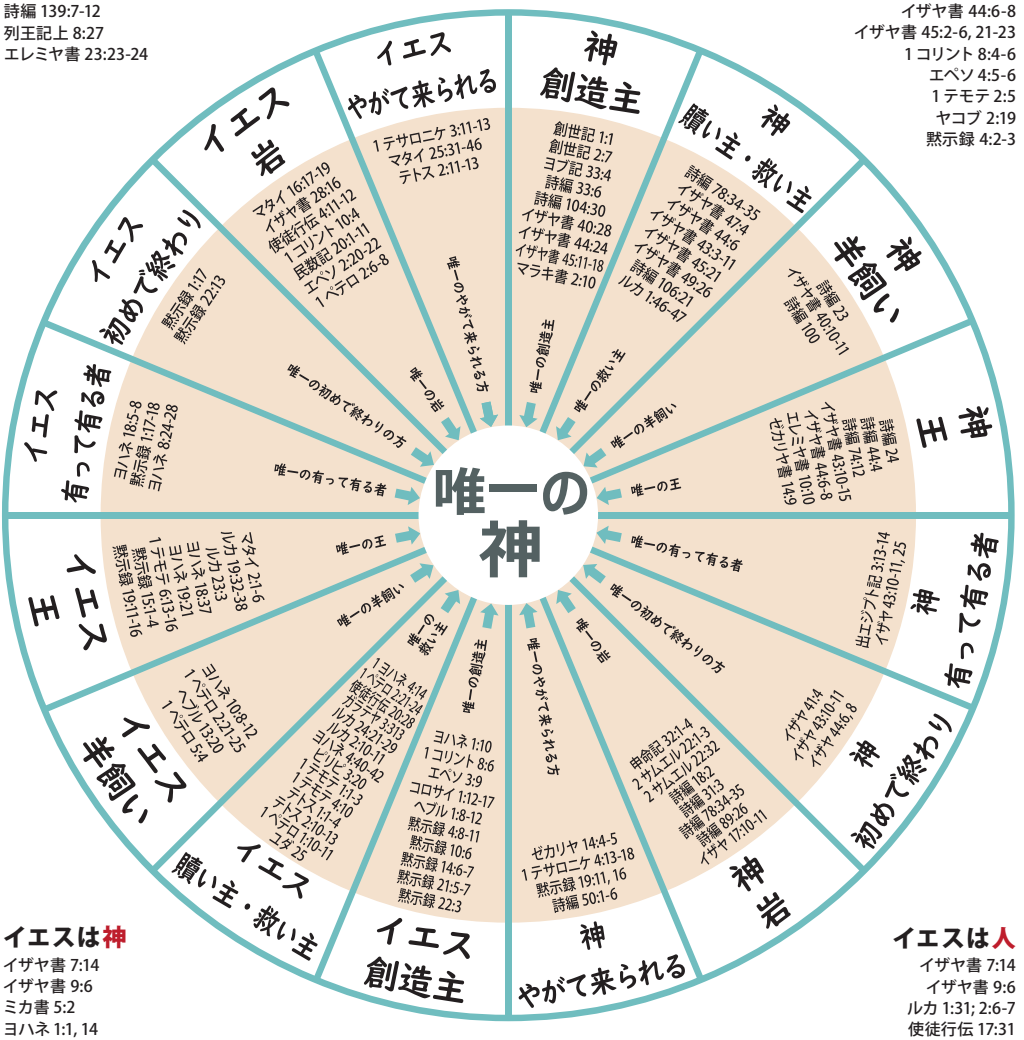
旧約聖書の「わたしはある（I AM）」

ヨハネによる福音8:56-59「あなたがたの父アブラハムは、わたしのこの日を見ようとして楽しんでいた。そしてそれを見て喜んだ」。[57]そこでユダヤ人たちはイエスに言った、「あなたはまだ五十にもならないのに、アブラハムを見たのか」。[58]イエスは彼らに言われた、「よくよくあなたがたに言っておく。アブラハムの生れる前からわたしは、いるのである」。[59]そこで彼らは石をとって、イエスに投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、宮から出て行かれた。

預言の輪

神は霊
ヨハネによる福音書 4:23-24
使徒言行録 7:48-49
使徒言行録 17:24-28
詩編 139:7-12
列王記上 8:27
エレミヤ書 23:23-24

神はただひとり
申命記 6:4-9
マルコ 12:28-32
マラキ書 2:10
イザヤ書 44:6-8
イザヤ書 45:2-6, 21-23
1 コリント 8:4-6
エペソ 4:5-6
1 テモテ 2:5
ヤコブ 2:19
黙示録 4:2-3



イエスは神
イザヤ書 7:14
イザヤ書 9:6
ミカ書 5:2
ヨハネ 1:1, 14
ヨハネ 1:10
ヨハネ 8:24, 58-59
ヨハネ 14:6-11
2 コリント 5:19
1 テモテ 3:16

イエスは人
イザヤ書 7:14
イザヤ書 9:6
ルカ 1:31; 2:6-7
使徒行伝 17:31
ガラテヤ 4:4
ピリピ 2:7-8
1 テモテ 2:5
ヘブル 4:15
ヘブル 7:24-25

神とは誰か？

#4: イエスは、旧約聖書の神が肉体をもって御自身を_____お方です。

イザヤ書59:15-20「真実は欠けてなく、悪を離れる者はかすめ奪われる。主はこれを見て、公平がなかったことを喜ばれなかった。16主は人のないのを見られ、仲に立つ者のないのをあやしまれた。それゆえ、ご自分のかいなをもって、勝利を得、その義をもって、おのれをささえられた。・・・ 20主は言われる、「主は、あがなう者としてシオンにきたり、ヤコブのうちの、とがを離れる者に至る」と。」

コリント人への第二の手紙5:18-19「しかし、すべてこれらの事は、神から出ている。神はキリストによって、わたしたちをご自分に和解させ、かつ和解の務をわたしたちに授けて下さった。19すなわち、神はキリストにおいて世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをしないで、わたしたちに和解の福音をゆだねられたのである。」

テトスへの手紙2:13-14「祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現を待ち望むようにと、教えている。14このキリストが、わたしたちのためにご自身をささげられたのは、わたしたちをすべての不法からあがない出して、良いわざに熱心な選びの民を、ご自身のものとして聖別するためにほかならない。」

#5: 神は、私たちを罪から救うために、_____来られました。

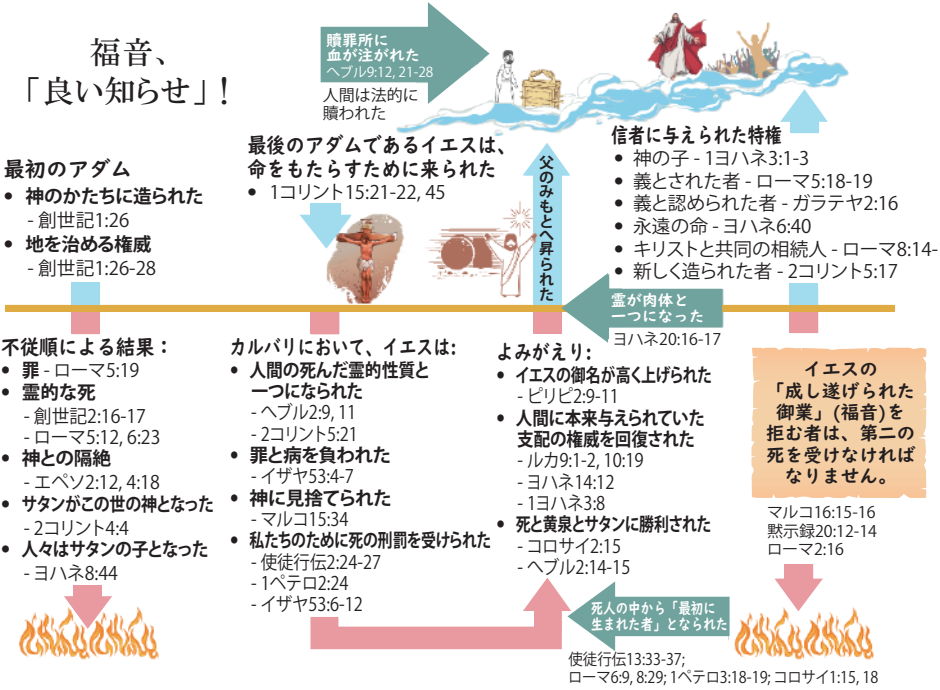
VI. イエスは罪を赦された

マタイによる福音書9:2-7「すると、人々が中風の者を床の上に寝かせたままでみもとに運んできた。イエスは彼らの信仰を見て、中風の者に、「子よ、しっかりしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ」と言われた。3すると、ある律法学者たちが心の中で言った、「この人は神を汚している」。4イエスは彼らの考えを見抜いて、「なぜ、あなたがたは心の中で悪いことを考えているのか。5あなたの罪はゆるされた、と言うのと、起きて歩け、と言うのと、どちらがたやすいか。6しかし、人の子は地上で罪をゆるす権威をもっていることが、あなたがたにわかるために」と言い、中風の者にむかって、「起きよ、床を取りあげて家に帰れ」と言われた。7すると彼は起きあがり、家に帰って行った。」

マルコによる福音書2:5-8「イエスは彼らの信仰を見て、中風の者に、「子よ、あなたの罪はゆるされた」と言われた。6ところが、そこに幾人かの律法学者がすわっていて、心の中で論じた、7「この人は、なぜあんなことを言うのか。それは神をけがすことだ。神ひとりのほかに、だれが罪をゆるすことができるか」。8イエスは、彼らが内心このように論じているのを、自分の心ですぐ見ぬいて、「なぜ、あなたがたは心の中でそんなことを論じているのか。」

罪を赦すことによって、イエスは御自身が神であることを示しておられました。イエスは単に罪を赦されただけではありません。イエスは罪の刑罰を支払うために死なれたのです。

VII. イエス・キリストの死、埋葬、そして復活

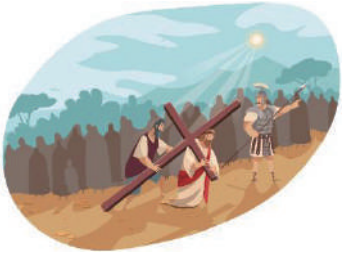


マタイによる福音書27:1-2「夜が明けると、祭司長たち、民の長老たち一同は、イエスを殺そうとして協議をこらした上、[2]イエスを縛って引き出し、総督ピラトに渡した。」

マタイによる福音書27:22-23「ピラトは言った、「それではキリストといわれるイエスは、どうしたらよいか」。彼らはいっせいに「十字架につけよ」と言った。[23]しかし、ピラトは言った、「あの人は、いったい、どんな悪事をしたのか」。すると彼らはいっそう激しく叫んで、「十字架につけよ」と言った。」



A. イエスは十字架に向かう途中で拷問を受けられました。



マタイによる福音書27:26-31「そこで、ピラトはバラバをゆるしてやり、イエスをむち打ったのち、十字架につけるために引きわたした。[27]それから総督の兵士たちは、イエスを官邸に連れて行って、全部隊をイエスのまわりに集めた。[28]そしてその上着をぬがせて、赤い外套を着せ、[29]また、いばらで冠を編んでその頭にかぶらせ、右の手には葦の棒を持たせ、それからその前にひざまずき、嘲弄して、「ユダヤ人の王、ばんざい」と言った。[30]また、イエスにつばきをかけ、葦の棒を取りあげてその頭をたたいた。[31]こうしてイエスを嘲弄したあげく、外套をはぎ取って元の上着を着せ、それから十字架につけるために引き出した。」

イザヤ書53:3-7「彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。[4]まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。[5]しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。[6]われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。[7]彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった。

B. イエスは十字架につけられた



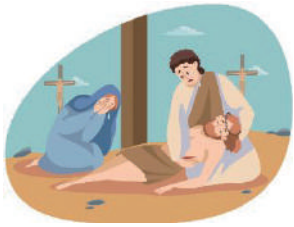
ペテロの第一の手紙2:21-24 あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。[22]キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。[23]ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。[24]さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。」

C. 十字架の上で苦しんでおられた時、イエスはどのような態度を取られたのでしょうか？

ヘブル人への手紙12:2「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。」

コリント人への第一の手紙2:7-8「むしろ、わたしたちが語るのは、隠された奥義としての神の知恵である。それは神が、わたしたちの受ける栄光のために、世の始まらぬ先から、あらかじめ定めておかれたものである。[8]この世の支配者たちのうちで、この知恵を知っていた者は、ひとりもいなかった。もし知っていたなら、栄光の主を十字架につけはしなかったであろう。」

D. イエスが死なれた時、神殿の幕が裂けた



マタイによる福音書27:50-51「イエスはもう一度大声で叫んで、ついに息をひきとられた。[51]すると見よ、神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。また地震があり、岩が裂け、」

E. 埋葬と復活

マタイによる福音書27:57-60「夕方になってから、アリマタヤの金持で、ヨセフという名の人がきた。彼もまたイエスの弟子であった。[58]この人がピラトの所へ行って、イエスのからだの引取りかたを願った。そこで、ピラトはそれを渡すように命じた。[59]ヨセフは死体を受け取って、きれいな亜麻布に包み、[60]岩を掘って造った彼の新しい墓に納め、そして墓の入口に大きい石をころがしておいて、帰った。」

人類に新しい時代の
夜明けが訪れる!



ヨハネによる福音書20:24-29「十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれているトマスは、イエスがこられたとき、彼らと一緒にいなかった。[25]ほかの弟子たちが、彼に「わたしたちは主にお目にかかった」と言うと、トマスは彼らに言った、「わたしは、その手に釘あとを見、わたしの指をその釘あとにさし入れ、また、わたしの手をそのわきにさし入れてみなければ、決して信じない」。[26]八日ののち、イエスの弟子たちはまた家の内におり、トマスも一緒にいた。戸はみな閉ざされていたが、イエスがはいってこられ、中に立って「安かれ」と言われた。[27]Tそれからトマスに言われた、「あなたの指をここにつけて、わたしの手を見なさい。手をのばしてわたしのわきにさし入れてみなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい」。[28]トマスはイエスに答えて言った、「わが主よ、わが神よ」。[29]イエスは彼に言われた、「あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者は、さいわいである」。」

コリント人への第一の手紙15:53-57「なぜなら、この朽ちるものは必ず朽ちないものを着、この死ぬものは必ず死なないものを着ることになるからである。[54]この朽ちるものが朽ちないものを着、この死ぬものが死なないものを着るとき、聖書に書いてある言葉が成就するのである。[55]「死は勝利にのまれてしまった。死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。死よ、おまえのとげは、どこにあるのか」。[56]死のとげは罪である。罪の力は律法である。[57]しかし感謝すべきことには、神はわたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜わったのである。」

#6: イエス・キリストの死、埋葬、そして復活こそ、人類を救う_____です。

VIII. 福音の計画におけるイエスの御名



ルカ24:1-45
ヨハネ20:1-29

ルカによる福音書24:45-48「そこでイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて[46]言われた、「こう、しるしてある。キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。[47]そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。[48]あなたがたは、これらの事の証人である。」

マタイによる福音書28:19「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、」

父と子と聖霊の御名とは何でしょうか？イエス―そうですね！もし使徒たちが、父と子と聖霊の御名を知っていたのであれば、彼らは当然、すべての回心した人々に、主イエス・キリストの御名によってバプテスマを授けたはずです。

それでは、その答えを次のレッスン、レッスン7で一緒に確かめていきましょう！

----------○○○ 補足資料 ○○○----------

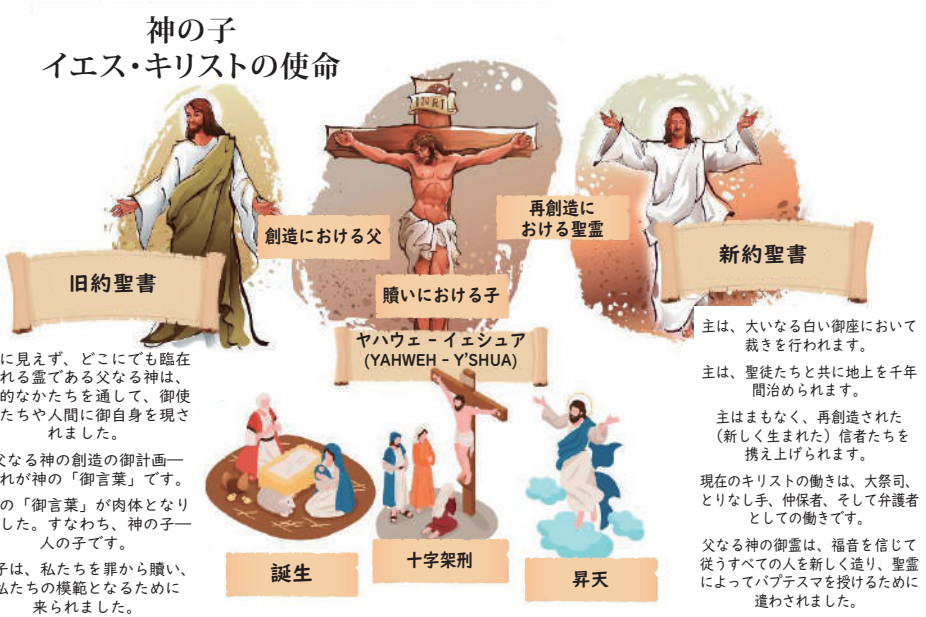
A. イエス・キリストとは誰か

イエス・キリストについて、人々はさまざまな考えを持っています。ある人々は、イエスは神であると言います。またある人々は、イエスは神の一部分である、神格の三分の一である、半神である、天使である、預言者である、あるいは単に善良な人であると言います。しかし、私たちはイエスについての人間の意見を信頼したいのではありません。私たちが信頼したいのは、聖書がイエスについて何と教えているかということです!

レッスン1で学んだように、真理を確立するのは人間の意見ではなく、聖書です。このレッスンで学ぶ「イエスとは誰か」というテーマは、私たちにとって極めて重要です。なぜなら、イエスについて正しく理解することによって、私たちは救い、癒し、解放、そして主から与えられるすべての祝福を受けることができるからです。

B. 神は唯一である

旧約聖書も新約聖書も、神はただおひとりであると教えています。



旧約聖書:

申命記6:4-7「イスラエルよ聞け。われわれの神、主は唯一の主である。[5]あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならない。[6]きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、[7]努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならない。」

この聖句は、ユダヤ人が日々告白する信仰告白であり、**「シェマ（Shema）」**と呼ばれています。そして、これは神についての根本的な真理を宣言しています。「イスラエルよ聞け。われわれの神、主は唯一の主である。」神が唯一であることを力強く宣言するこの教えは、旧約聖書の次の三つの箇所にも見ることができます：**民数記 15:37-41、申命記 6:4-9、申命記11:13-21**。そしてイエス御自身も、この神についての根本的な真理を繰り返して教えられました。

新約聖書:

マルコによる福音書12:29-31「イエスは答えられた、「第一のいましめはこれである、『イスラエルよ、聞け。**主なるわたしたちの神は、ただひとりの主である。**[30]心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。[31]第二はこれである、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これより大事ないましめは、ほかにない」。」

新約聖書も旧約聖書も、神はただおひとりであると教えています。そして、この真理は決して変わることがありません。旧約聖書のイスラエルの民は、唯一の神を信じていました（唯一神信仰／一神教）。同じように、新約聖書のキリスト教会も、多くの神々を信じる多神教ではなく、ただひとりの神を信じていました。使徒たちもまた、神はただおひとりであると教えました。

ヤコブの手紙2:19「あなたは、神はただひとりだと信じているのか。それは結構である。悪霊どもでさえ、信じておののいている。」

要するに、旧約聖書は一貫して、神は唯一であると語っています。聖書は何度も神を「イスラエルの聖者」と呼んでいます（詩篇71:22、78:41/イザヤ書1:4、5:19、5:24）。しかし、神を「二人の聖なる者」「三人の聖なる者」、あるいは「多くの聖なる神々」と呼ぶことはありません。真理は変わりません。そして神は今もなお、私たちがこの御言葉を信じることを望んでおられます。「イスラエルよ聞け。われわれの神、主は唯一の主である。」

C. 神はただおひとりであり、神であるのは主だけである

質問：次の聖句から、神についてどのようなことを理解し、どのような結論を導き出すことができるでしょうか？

詩篇86:10「あなたは大いなる神、くすしきみわざをなされる方、**ただあなたのみ、神でいらせられます。**」

イザヤ書43:10-11「主は言われる、「あなたがたはわが証人、わたしが選んだわがしもべである。それゆえ、あなたがたは知って、わたしを信じ、わたしが主であることを悟ることができる。**わたしより前に造られた神はなく、わたしより後にもない。**[11]**ただわたしのみ主である。わたしのほかに救う者はいない。」**

サムエル記下7:22「それゆえ、主なる神よ、あなたは大いなる方です。われわれがすべて耳に聞いたところによれば、**あなたのような者はなく、あなたのほかに神はありません。**」

歴代誌上17:20「主よ、われわれがすべて耳に聞いた所によれば、あなたのようなものはなく、またあなたのほかに神はありません。」

イザヤ書44:8「恐れてはならない、またおののいてはならない。わたしはこの事を昔から、あなたがたに聞かせなかったか、また告げなかったか。あなたがたはわが証人である。**わたしのほかに神があるか。わたしのほかに岩はない。わたしはそのあることを知らない」**。」

答え： 聖書は非常に明確です。主のほかに神はいません。

D. 神は霊である

神が唯一のお方であることを理解するためには、まず神の本質、すなわち神がどのようなお方であるかを理解しなければなりません。イエスは、**ヨハネによる福音書4章24節でこう言われました。「神は霊である。**そして、神を礼拝する者は、霊とまこととをもって礼拝すべきである。」

注：ウェブスター辞典では、「霊（spirit）」を、「通常は人間の目には見えないが、自らの意志によって目に見える形で現れる力を持つ、超自然的で理性的な存在」と定義しています。「霊」を意味するヘブル語 ruwach（ルーアハ） には、「風」「息」「命」「理性的存在の霊」などの意味があります。また、ギリシャ語 pneuma（プニューマ） には、「空気の流れ」「息」「風」などの意味があります。

これらの定義はいずれも、霊には肉や骨がないことを示しています。聖書が「神は霊である」と言う時、それは、神がその本質において肉体的に見たり触れたりすることのできる存在ではなく、知性を持つ超自然的な存在であるということを意味しています。

神は霊であるため、御自身が人間に見える何らかの形で現れることを選ばれない限り、目に見ることのできないお方です（出エジプト記33:20 / ヨハネによる福音書1:18 / ヨハネの第一の手紙4:12 / テモテへの第一の手紙6:16 / コロサイ人への手紙1:15 / テモテへの第一の手紙1:17 / ヘブル人への手紙11:27）。

神がさまざまな形で御自身を現される時、人はその現れを見ることができます。しかし、目に見えない神の霊そのものを直接見ることのできる人はいません。

E. 神御自身が聖霊である

霊として働かれる神

イザヤ書54:5「あなたを造られた者はあなたの夫であって、その名は万軍の主。あなたをあがなわれる者は、**イスラエルの聖者**であって、全地の神ととなえられる。」

神は「聖者」です。神だけが御自身の本質において聖なるお方であり、ほかのすべての存在は、神からその聖さを受けています（**ヘブル人への手紙12:10**）。さらに、神は霊です（**ヨハネによる福音書4章24節**）。そして、神の霊はただ一つです。
エペソ人への手紙4:4：「からだは一つ、**御霊も一つ**である。あなたがたが召されたのは、一つの望みを目ざして召されたのと同様である。」

「聖霊」という呼び名は、神の本質的な性質を表しています。「聖」であることは神の道徳的属性の根本を表し、「霊」であることは神の非道徳的属性の根本を表しています。
したがって、**「聖霊」とは神御自身、すなわち唯一の聖なる霊である神**を表しているのです。

たとえば、ペテロはアナニヤとサッピラに、彼らが「聖霊を欺いた」と言い、その後、それは「神を欺いた」ことであると述べています（**使徒行伝5:3-4**）。同じように、パウロは次のように書いています：「あなたがたは**神の宮**であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。」さらに、次のように述べています：「あなたがたは知らないのか。自分のからだは、**神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮**であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。」（**コリント人への第一の手紙3:16、6:19**）

聖書は聖霊を、**「主の霊」**（イザヤ書40:13）、**「わが霊」**（ヨエル書2:28）、「神の霊」（ローマ人への手紙8:9）、**「聖霊」**（テサロニケ人への第一の手紙4:8）などと呼んでいます。これらの表現は、聖霊が神とは別の存在なのではなく、神に属する御霊、すなわち、**その霊的本質における神御自身であることを示しています**。

質問： もし聖霊が神御自身であるなら、なぜ「聖霊」という呼び名が必要なのでしょうか？そこには、どのような意味の違いがあるのでしょうか？

答え：「聖霊」という呼び名は、特に霊として働かれる神を表しています。とりわけ、霊であるからこそなすことのできる働きを行われる神を指しています。

注： 英語聖書で用いられる “Holy Ghost” と “Holy Spirit” は、どちらも同じ意味であり、同じギリシャ語の表現を訳したものです。また、聖書ではしばしば単に「御霊」とも呼ばれています。

F. 神は遍在・全知・全能である

遍在: どこにでも存在される

神は霊です。したがって、神は同時にあらゆる場所に存在することができます。そして、真に遍在される霊は、神だけです。悪霊、御使い、サタンなど、ほかの霊的存在はすべて、一度に一つの特定の場所にしか存在することができません（マルコによる福音書5;10 / ユダの手紙6 / ヨハネの黙示録20:1-3）。また、神はどこにでも存在されますが、神そのものが自然であるということではありません。また、私たちの目に見える自然界のものを神として礼拝するという意味でもありません（汎神論）。神は、木、水、星、宇宙など、多くのものが一つになった存在ではありません。神は私たちの目に見えるすべてのものを創造されました。しかし、神御自身が、それらの被造物なのではありません。

列王紀上8:27「しかし神は、はたして地上に住まわれるでしょうか。見よ、天も、いと高き天もあなたをいれることはできません。ましてわたしの建てたこの宮はなおさらです。」

詩篇139:7-12「わたしはどこへ行って、あなたのみたまを離れましょうか。わたしはどこへ行って、あなたのみ前をのがれましょうか。8わたしが天にのぼっても、あなたはそこにおられます。わたしが陰府に床を設けても、あなたはそこにおられます。9わたしがあけぼのの翼をかって海のはてに住んでも、10あなたのみ手はその所でわたしを導き、あなたの右のみ手はわたしをささえられます。11「やみはわたしをおおい、わたしを囲む光は夜となれ」とわたしが言っても、12あなたには、やみも暗くはなく、夜も昼のように輝きます。あなたには、やみも光も異なることはありません。」

質問： 神が遍在されるお方であるなら、なぜ聖書は、神が天におられると言っているのでしょうか？

答え： これは、神が超越したお方であることを教えています。言い換えれば、神は人間の理解をはるかに超えたお方であり、この地上だけに限定されるお方ではありません。「天」とは、いわば神の御思いと御働きの中心、すなわち神の統治の中心を表しています。

質問： 聖書が、神が地上に来られた、あるいは誰かに現れたと述べている場合、神はその時、遍在されるお方ではなくなるのでしょうか？

答え： いいえ。それは単に、ある特定の人や状況に関して、神の御働きの焦点が地上に向けられたということを意味しています。神は、天においても地上においても同時に働くことができ、また地上の複数の場所において同時に働くこともできます。

神は全知である: すべてを知っておられる

詩篇139:1-6「主よ、あなたはわたしを探り、わたしを知りつくされました。[2]あなたはわがすわるをも、立つをも知り、遠くからわが思いをわきまえられます。[3]あなたはわが歩むをも、伏すをも探り出し、わがもろもろの道をことごとく知っておられます。[4]わたしの舌に一言もないのに、主よ、あなたはことごとくそれを知られます。[5]あなたは後から、前からわたしを囲み、わたしの上にみ手をおかれます。[6]このような知識はあまりに不思議で、わたしには思いも及びません。これは高くて達することはできません。」

テモテへの第一の手紙1:17は、神を「唯一の神」として語っています。神は、すべてのことを完全に知っておられます。神はすべての人の思いを知り、未来を見通し、知るべきすべてのことを知っておられます。全知であるお方は、神だけです。

神は全能である: すべての力を持っておられる

創世記35:11「神はまた彼に言われた、『わたしは全能の神である。』」

ヨブ記22:26-27「その時、あなたは全能者を喜び、／神に向かって顔をあげることができる。[27]あなたが彼に祈るならば、彼はあなたに聞かれる。そしてあなたは自分の誓いを果す。」

ヨブ記42:2「わたしは知ります、あなたはすべての事をなすことができ、またいかなるおぼしめしでも、あなたにできないことはないことを。」

神はすべての力を持っておられます。神が許されなければ、ほかのいかなる存在も力を持ったり、それを行使したりすることはできません（ローマ人への手紙13:1）。全能であることができるのは神だけです。なぜなら、すべての力を持つことのできるお方は、ただおひとりだからです。神にある「制限」と言えるものは、神御自身がその道徳的な御性質に従って、自らに定めておられるものだけです。たとえば、神は聖なるお方であり、罪のないお方です。そして神は、御自身の聖なる御性質に反することをなさいません。したがって、神が偽ることや、御自身の御言葉に矛盾することは不可能です。（テトスへの手紙1:2、ヘブル人への手紙6:18参照）

G. 創造主なる神は、私たちの父である

マラキ書2:10「われわれは皆、一人の父をもっているではないか。一人の神がわれわれを創造したではないか。……」

イザヤ書37:16「ケルビムの上に座しておられるイスラエルの神、万軍の主よ、地のすべての国のうちで、ただあなただけが神でいらせられます。あなたは天と地を造られました。」

イザヤ書44:24「あなたをあがない、あなたを胎内に造られた主はこう言われる、『わたしは主である。わたしはよろずの物を造り、ただわたしだけが天をのべ、自分ひとりで地をひらき……』」

イザヤ書45:18「天を創造された主、すなわち神であって、また地をも造り成し、これを堅くし、いたずらにこれを創造されず、これを人のすみかに造られた主はこう言われる、『わたしは主である、わたしのほかに神はない。』」

ローマ人への手紙8:14-16「すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である。[15]あなたがたは再び恐れをいだかせる奴隷の霊を受けたのではなく、子たる身分を授ける霊を受けたのである。その霊によって、わたしたちは「アバ、父よ」と呼ぶのである。[16]御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。

創造主である神は、私たちの父です。「父」という呼び名は、神と人間との関係、特に新しく生まれることを経験した者と神との関係を表しています。

H. イエスは神である

<u>神は人となられた</u>

テモテへの第一の手紙3:16「確かに偉大なのは、この信心の奥義である、『キリストは肉において現れ、霊において義とせられ、御使たちに見られ、諸国民の間に伝えられ、世界の中で信じられ、栄光のうちに天に上げられた』。」

質問： なぜ神は人となられたのでしょうか？

答え： エデンの園で、神が最初に動物を身代わりとして死なせ、アダムとエバの裸を覆う衣を備えられた時から、幕屋（レッスン5）、そして神殿において毎日動物の犠牲がささげられる時代に至るまで、神は人間の罪に対して、一時的な贖いの備えを与えてくださいました。しかし、動物の犠牲によって、人類の罪の代価である死を完全かつ永遠に支払うことはできませんでした。そこで、霊である神は、罪のない人間の肉体、すなわち神の子イエス・キリストを備え、その内に御自身が宿られました。そして、その肉体によって死を受け、全人類の罪の代価を完全に支払われたのです。

イザヤ書59:15-20「真実は欠けてなく、悪を離れる者はかすめ奪われる。主はこれを見て、公平がなかったことを喜ばれなかった。[16]主は人のないのを見られ、仲に立つ者のないのをあやしまれた。それゆえ、ご自分のかいなをもって、勝利を得、その義をもって、おのれをささえられた。・・・ [20]主は言われる、「主は、あがなう者としてシオンにきたり、ヤコブのうちの、とがを離れる者に至る」と。」

コリント人への第二の手紙5:18-19「しかし、すべてこれらの事は、神から出ている。神はキリストによって、わたしたちをご自分に和解させ、かつ和解の務をわたしたちに授けて下さった。[19]すなわち、神はキリストにおいて世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをしないで、わたしたちに和解の福音をゆだねられたのである。」

テトスへの手紙2:13-14「祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現を待ち望むようにと、教えている。[14]このキリストが、わたしたちのためにご自身をささげられたのは、わたしたちをすべての不法からあがない出して、良いわざに熱心な選びの民を、ご自身のものとして聖別するためにほかならない。」

I. イエス・キリスト — われわれと共にいます神

「イエスとは誰なのか」という問いは、次の聖句を読むことによって明確に答えることができます：

ルカによる福音書2:11「きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。」

イザヤ書7:14「それゆえ、主はみずから一つのしるしをあなたがたに与えられる。見よ、おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルととなえられる。」

マタイによる福音書1:21-23「彼女は男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである」。[22]すべてこれらのことが起ったのは、主が預言者によって言われたことの成就するためである。すなわち、[23]「見よ、おとめがみごもって男の子を産むであろう。その名はインマヌエルと呼ばれるであろう」。これは、「神われらと共にいます」という意味である。」

イエスは、単に神の一部分でも、預言者のような単なる神の代理者でもありませんでした。イエスは、まさに「神われらと共にいます」お方であり、今もそのお方です。神は、ほかの誰かの民を罪から救うために来られたのではありません。神御自身が、御自分の民をその罪から救うために来られたのです。

J. イエスは・・・

<u>・主であり、神である</u>

ヨハネによる福音書20:28-29「トマスはイエスに答えて言った、「わが主よ、わが神よ」。[29]イエスは彼に言われた、「あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者は、さいわいである」。

ここで注目すべきことは、トマスがイエスを、「主」であり「神」であると呼んでいることです。天と地を造り、人をご自身のかたちに創造された主なる神（創世記2:4、7）が、今や肉体をもって、驚きに満たされた使徒の目の前に立っておられたのです！

・救主

イザヤ書43:10-11「主は言われる、「あなたがたはわが証人、わたしが選んだわがしもべである。それゆえ、あなたがたは知って、わたしを信じ、わたしが主であることを悟ることができる。わたしより前に造られた神はなく、わたしより後にもない。[11]ただわたしのみ主である。わたしのほかに救う者はいない。」

ペテロの第二の手紙1:1「イエス・キリストの僕また使徒であるシメオン・ペテロから、わたしたちの神と救主イエス・キリストとの義によって、わたしたちと同じ尊い信仰を授かった人々へ。」

・神のかたち

コリント人への第二の手紙4:4「神のかたちであるキリスト……」

コロサイ人への手紙1:15「御子は、見えない神のかたちであって、すべての造られたものに先だって生れたかたである。」

・大能の神、とこしえの父

イザヤ書9:6「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、『霊妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君』ととなえられる。」

ヨハネによる福音書14:8-9「ピリポはイエスに言った、「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下されば、わたしたちは満足します」。[9]イエスは彼に言われた、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか。」

・肉体に宿る神の満ちみちた徳

コロサイ人への手紙2:9-10「キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、[10]そしてあなたがたは、キリストにあって、それに満たされているのである。彼はすべての支配と権威とのかしらであり、」

・神であり、人である

「神の子」という称号は、イエスの人性を表しています。そしてこの称号は、イエスが完全に人となられ、私たちと同じ人間として来られたことを示しています。

テモテへの第一の手紙3:16「確かに偉大なのは、この信心の奥義である、『キリストは肉において現れ、霊において義とせられ、御使たちに見られ、諸国民の間に伝えられ、世界の中で信じられ、栄光のうちに天に上げられた』。」

ヘブル人への手紙2:17-18「そこで、イエスは、神のみまえにあわれみ深い忠実な大祭司となって、民の罪をあがなうために、あらゆる点において兄弟たちと同じようにならねばならなかった。[18]主ご自身、試錬を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのである。」

イエスは、肉体において完全に神であられました。人としてのイエスは、空腹を覚え、疲れを経験し、一度に一つの場所におられました。しかし、神としてのイエスは、罪を赦し、奇跡を行い、死んだ御自身の肉体を墓からよみがえらせました。イエスは、まさに肉体をもって現れた神であられたのです！

イエスについての正しい理解

人としてのイエスは・・・	しかし、神としてのイエスは・・・
① 赤子として生まれた（ルカ2:7）	永遠の昔から存在しておられた (ミカ書5:2; ヨハネ1:1-2)
② 知恵においても、からだにおいても、また人との関係においても成長した (ルカ2:52)	決して変わることがない（ヘブル13:8）
③ 悪魔の試みにあわれた（ルカ4:2）	悪霊を追い出された（マタイ12:28）
④ 空腹を覚えた（マタイ4:2）	命のパンであられた（ヨハネ6:35） 奇跡によって大勢の人々を養われた (マルコ6:38、44、52)
⑤ 渇きを覚えた（ヨハネ19:28）	生ける水を与えられた（ヨハネ4:14）
⑥ 疲れを覚えた（ヨハネ4:6）	安息を与えられた（マタイ11:28）
⑦ 嵐の中で眠られた（マルコ4:38）	嵐を静められた（マルコ4:39-41）
⑧ 祈られた（ルカ22:41）	祈りに答えられた（ヨハネ14:14）
⑨ むち打たれ、打たれた（ヨハネ19:1-3）	病人を癒された (マタイ8:16-17、1ペテロ2:24)
⑩ 死なれた（マルコ15:37）	御自身の肉体を死人の中からよみがえらせた (ヨハネ2:19-21、20:9)
⑪ 罪のための犠牲となられた (ヘブル10:10-12)	罪を赦された（マルコ2:5-7）
⑫ すべてのことをご存じではなかった (マルコ13:32)	すべてのことを知っておられた (ヨハネ21:17)
⑬ 力がなかった (ヨハネ5:30)	すべての権威を持っておられた (マタイ28:18、コロサイ2:10)
⑭ 父よりも低い立場におられた (ヨハネ14:28)	神と等しく、神であられた（ヨハネ5:18）
⑮ しもべとなられた（ピリピ2:7-8）	王の王であられた（ヨハネの黙示録19:16）

イエスが完全な神であると同時に、完全な人であられたことを正しく理解するなら、神についての多くの疑問を理解する助けとなります。イエスについての聖句を読む時、それがイエスの神性について述べているのか、人性について述べているのか、あるいはその両方について述べているのかを見分けることができます。また、イエスが語られる言葉を読む時にも、イエスが人として語っておられるのか、神として語っておられるのか、あるいはその両方の観点から語っておられるのかを考えることができます。神はただおひとりです。したがって、神のうちに二人の別々の存在、あるいは二人の神がおられると考えるのではなく、神なる霊と、真の人間としての肉体という観点から理解する必要があります。私たち人間が、自分の人性や神との関係について語ることができるのと同じように、イエスもその人性において語ることができました。ただし、イエスには罪がありませんでした。それと同時に、イエスは神として語り、神として働くこともできたのです。

たとえば、イエスはある時には眠っておられましたが、その次の瞬間には、荒れ狂う嵐に命じて静めることができました!イエスは人として語ることも、神として語ることもできました。しかも、イエスは同時に、完全な人であり、完全な神であられたのです。

K. 神の御名

ゼカリヤ書14:9「主は全地の王となられる。その日には、主ひとり、その名一つのみとなる。」

旧約聖書における御名	旧約聖書　聖句	イエスはわれらの・・・	新約聖書　聖句
エホバ・エレ（主が備え給う）	創世記22:14	備えの主 (いけにえの)	ヘブル10:10-12
エホバ・ラファ（主が癒す）	出エジプト記15:26	癒しの主	ヤコブ5:14-15
エホバ・ニシ（主、我らの旗・勝利）	出エジプト記17:15	勝利	コリント第一15:57
エホバ・メカデシ（主は聖別する）	出エジプト記31:13	我らを聖なる者とする主	エペソ5:26
エホバ・シャローム（主、我らの平和）	士師記6:24	平安	ヨハネ14:27
エホバ・サバオト（万軍の主）	サムエル記上1:3	万軍の主	ヤコブ5:4-7
エホバ・エルヨン（主はいと高き神）	詩編7:17	いと高き主	ルカ1:32, 76,78
エホバ・ロイ/ラア（主は羊飼い）	詩編23:1	羊飼い	ヨハネ10:11
エホバ・ホセヌ（主は造り主）	詩編95:6	創造主	ヨハネ1:3
エホバ・ツクヌ（主は義）	エレミヤ書23:6	正義	コリント第一1:30
エホバ・シャンマ（主はそこにおられる）	エズラ記48:35	そばにおられる主	マタイ28:20

創世記からヨハネの黙示録まで聖書を読んでいくと、神がさまざまな御名や称号を用いて、御自身について新たなことを明らかにされたことが分かります（エホバ、「わたしはある」など）。それぞれの新しい御名や称号は、人々が神をどのようなお方として知るのか、また神がどのように彼らと関わられるのかを、さらに明らかにするものでした。

<u>イエスは、唯一の神が啓示された御名である</u>

神が肉体をもって現れ、イエスとして御自身を現された後、聖書にはそれに続く新しい御名は啓示されていません。イエスという御名は、「エホバは救い」という意味を持ち、人類を贖い、唯一の神を明らかにするために与えられた、完全かつ最終的に啓示された御名です。

使徒行伝4:12「この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである。」

コロサイ3:17「そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなし……」

メモ

Tokyo Worship Tabernacle Bible School 2026

[Material based on “God’s Plan Revealed”, Joy Fellowship, Singapore]

東京賛美の宮聖書学校2026

[「神の計画が明らかに」、ジョイ・フェローシップ、シンガポール、に基づく資料]

東京賛美の宮
TokyoWorshipTabernacle
Japan United Pentecostal Church :: 日本ユナイテッドペンテコステ教会

www.tokyoworshiptabernacle.org ・ tokyoworshiptabernacle@gmail.com